

## 企画展「巳からでたへび 十二支の郷土玩具」

令和6年12月19日(木)～令和7年2月18日(火)

## ◆開催趣旨

十二支の6番目、巳年に充てられた生きものは「へび」である。ひとつ前の辰年は龍と結びつき、強さや神々しさなど前向きなイメージを持たれている。見た目は龍と似ているへびだが、こちらは「怖い」「毒がある」「小鳥を食べられた」など、現実世界ではマイナス面が強い印象である。しかし、古くからへびをまつる神社への信仰や、現代でも財布に脱皮したへびの皮を入れて金運上昇を狙う人など、へびをありがたく思う心情も長らく存在する。愛憎半ばするへびと人の関係は、他の十二支ではあまり見られない。

郷土玩具の十二支にまつわるものは室内に飾るのがおもな目的なので、近年になって作られたもののほど、リアルな表現よりもややかわいらしい、柔らかなデザインのへびが多い。へび単体だけでなく、信仰や伝説と関連付けた造形もあり、この機会にふだんは視界に入れたくないへびについて、興味喚起につながれば幸いである。また、十二支から郷土玩具に目を向けてもらうことも期待している。

## 【展示資料一覧】

(すべてわらべ館所蔵)

番号	資料名	産地	制作	年代
1	巳(木彫り人形)	北海道	トミヤ郷土民芸	1960～70年代か
2	リンゴと巳(下川原焼土人形)	青森県	阿保正志	2024年
3	長者へび(六原張子)	岩手県	さわはん工房	2012年
4	巳土鈴(中山人形)	秋田県	樋渡人形店	2012年
5	巳(仙台張子)	宮城県	高橋はしめ工房	2012年
6	木地巳(こま)	宮城県	鎌田孝志	2012年
7	巳(笹野一刀彫)	山形県	米沢美術工芸研究所	2000年
8	巣ごもり 巳(笹野一刀彫)	山形県	米沢美術工芸研究所	2000年
9	福助乗り巳(中湯川人形)	福島県	青柳守彦	2012年
10	達磨乗り巳(中湯川人形)	福島県	青柳守彦	2012年
11	小槌乗り巳(中湯川人形)	福島県	青柳守彦	2012年
12	福良雀乗り巳(中湯川人形)	福島県	青柳守彦	2012年
13	扇持ち 巳(中湯川人形)	福島県	青柳守彦	2000年
14	来らんしょ巳 赤・青(中湯川人形)	福島県	青柳守彦	2012年
15	鯰乗り巳(中湯川人形)	福島県	青柳守彦	2012年
16	豆誕生巳(中湯川人形)	福島県	青柳守彦	2012年
17	俵乗り巳(中湯川人形)	福島県	青柳守彦	2012年
18	尾振巳 大(三春張子)	福島県	橋本宏司	2000年
19	巳(土人形)	新潟県	古食庵	2000年代か
20	巳(五箇山和紙)	富山県	五箇山和紙工房	2024年
21	蛇の目土鈴(富山土人形)	富山県	とやま土人形工房	2015年
22	起上り巳(金沢張子)	石川県	中島めんや	2000年
23	巳(越前竹細工)	福井県	越前竹細工工房	2020年
24	巳(高崎だるま)	群馬県	ましも	2024年
25	巳 大・小(きびがら細工)	栃木県	青木行雄	2000年
26	十二支土鈴巳	栃木県	小川昌信	1988年
27	巳車(川越張子)	埼玉県	荒井良	2000年

番号	資料名	産地	制作	年代
28	へび三番叟(春日部張子)	埼玉県	玩古庵	2012年
29	ダルマへび(春日部張子)	埼玉県	玩古庵	2012年
30	招へび(春日部張子)	埼玉県	玩古庵	2012年
31	豆へび(春日部張子)	埼玉県	玩古庵	2012年
32	下総玩具首人形十二支	千葉県	松本節太郎	1993年
33	巳土鈴 白(深大寺土鈴)	東京都	むさし野深大寺窯	2000年
34	巳土鈴 黄(深大寺土鈴)	東京都	むさし野深大寺窯	2000年
35	福巳(今戸人形)	東京都	白井靖二郎	2000年
36	招き巳 男・女(江戸張子)	東京都	いせ辰	2000年
37	弁天乗り巳(江戸張子)	東京都	いせ辰	2012年
38	千支奴巳(江戸張子)	東京都	いせ辰	2012年
39	来福巳(江戸張子)	東京都	いせ辰	2012年
40	浅草富士神社の蛇(麦藁蛇) 大小	東京都	不明	不明
41	大山の竹蛇	神奈川県	不明	不明
42	巳ころがし(浜松張子)	静岡県	二橋加代子	2000年
43	招福土鈴巳(甲府土人形)	山梨県	齊藤岳南	2012年
44	福袋巳 土鈴(青)・(赤)	長野県	中西康二 藤屋	2012年
45	巳(木版染)	岐阜県	真工藝	2012年
46	神宮えと守・巳(伊勢一刀彫)	三重県	伊勢神宮	不明
47	娘道成寺巳(小幡土人形)	滋賀県	細居源悟	2012年
48	岩乗り弁天さん巳(小幡土人形)	滋賀県	細居源悟	2012年
49	巾着袋巳 中(小幡土人形)	滋賀県	細居源悟	2000年
50	へび土鈴(小幡土人形)	滋賀県	細居源悟	2012年
51	道成寺 中(小幡土人形)	滋賀県	細居源悟	2000年
52	巳一匹(伏見人形)	京都府	菱平	2000年
53	巳二匹(伏見人形)	京都府	菱平	2000年
54	巳(清水人形)	京都府	高橋毅	2000年
55	三輪山巳土鈴(赤膚焼)	奈良県	小川二楽	2000年代か
56	巳土鈴	奈良県	春日大社	不明
57	熊野十二支	和歌山県	熊野工房	2000年代か
58	福巳	大阪府	倉持本戎宮	不明
59	雲の上のへび(須磨張子)	兵庫県	吉岡武徳	2024年
60	首振巳(倉敷張子)	岡山県	生水玩山	2000年
61	松竹梅蛇面(宮島張子)	広島県	田中司郎	2024年
62	鳥取のえと 巳 大	鳥取県	信夫賢太郎	2002年
63	山陰十二支 巳 大	鳥取県	小椋昌雄	2000年
64	巳 首振り(倉吉張子)	鳥取県	はこた人形工房	2024年
65	起き上がり 巳(倉吉張子)	鳥取県	はこた人形工房	2024年
66	巳土鈴 白(因州若桜焼)	鳥取県	大坪英治	2012年
67	へび(北條土人形)	鳥取県	加藤廉兵衛	1989年

番号	資料名	産地	制作	年代
68	巳(北條土人形)	鳥取県	加藤廉兵衛	1996年
69	巳(干支人形)	鳥取県	スミ屋	2024年
70	首振巳 大(出雲張子)	島根県	高橋張子	2000年
71	首振巳(高松張子)	香川県	大崎文仙堂	2000年
72	壺へび土鈴(長州土鈴)	山口県	康重窯	不明
73	袷巳(高松土人形)	香川県	大崎文仙堂	2000年
74	巳(愛媛一刀彫)	愛媛県	南雲	2015年
75	巳(香泉人形)	高知県	山本香泉	1980年代
76	巳(門司ヶ関人形)	福岡県	上村誠	2012年
77	巳鈴 大(能古見人形)	佐賀県	のごみ人形工房	2000年
78	干支巳 金・白(木の葉土人形)	熊本県	木の葉工房	2012年
79	へび(別府土鈴)	大分県	宮脇弘至	2000年
80	巳土鈴(別府土鈴)	大分県	宮脇弘至	2000年
81	開運福袋巳(佐土原人形)	宮崎県	ますや	2000年
82	招福角樽 巳(佐土原人形)	宮崎県	ますや	2000年
83	薩摩首人形(巳)	鹿児島県	鹿島たかし	2000年
84	ハブグラー	沖縄県	不明	不明

## 【へびとは】

へびは、生物学的には爬虫綱有鱗目へび亜目に分類される爬虫類の一種である。四肢は退化し、細長い棒状の身体を小さな鱗が包み、その鱗の動きがあらゆる移動を可能にしている。また、舌の先が二股に分かれているのが、見た目の特徴である。

「巳」の漢字をその成り立ちから説くと、精霊を象徴するへびの形をかたどり、神をとどめまつる意味を表している。

## 【嫌われるへびVS縁起のよいへび】

人々が忌み嫌うものをたとえに「蛇蝎<sup>だかつ</sup>」という言葉がある。「蝎」はサソリ、「蛇蝎のごとく嫌う」とは、かなりの嫌悪感を表している。親鸞<sup>しんらん</sup>の言葉から生まれた表現とされ、人が持つ悪の心を毒蛇や毒サソリにたとえている。比喻とはいえ、毒がないとわかっていても、爬虫類好きな人以外はへびを触るのに、ちょっとした勇気が必要とする。

翻って、へびは縁起が良い側面も持ち合わせている。脱皮の様子から「生まれ変わり」「再生」を象徴し、あるいは川の流れをへびに見立て、水の守り神にもなっている。特に岩国のシロへびは神の使いと大事にされ、地域が保存会を結成し、博物館も建てられている。また、出雲大社の大注連縄は2匹のへびが絡まった様子とされ、縁結びや出産の神様ならではのかたちとなっている。へびと人間は両極端な付き合いかたをしているようだ。

## 【へびの異名と姿から】

「へみ」へびの古語。沖縄の「ハブ」なども音韻が重なる。

「くちなわ」口縄・朽縄

腐った縄を「朽ち縄」と言い、その見た目がへびに似ているとされる。

「ながむし」長虫

異なる文字だった「蟲」と「虫」。小動物を表した「蟲」とへびを表していた「虫」が、時を経て同じ意味に解釈され、混同が起きた。(つまり「爬虫類」は当て字ではない)

「うわばみ」蟒蛇

もとはニシキへびのような大きなへびを指すが、現代では、大蛇が獲物を丸呑みする様子からか、大酒飲みや酒豪

を表すことの方が多い。

「じゃのめ」蛇の目

同心円状の模様(右図)。蛇の目傘、利き猪口の底の模様。

「じゃばら」蛇腹

山折りと谷折りの組合せで伸び縮みするしくみ。アコーディオン、ホースなどに採用。

「とぐろ」蝮局 峙

細長い棒状のものを円錐型に巻いた状態

「かまくび」鎌首

へびが頭の近くをほぼ垂直に立ち上げ、頭を鎌のように曲げて、威嚇したり獲物を捕らえたりするときの状態。「鎌首をもたげる」は不穏な出来事の前兆としても使われる。



### 【「蛇化現象」起こる「蛙化現象」を超えて】

ここ5、6年で若い世代を中心によく使われる「蛙化(現象)」という言葉は、好きな人の何らかの言動によって、たちまち好意が失われることとされている。元はグリム童話の「かえるの王子様」に例えて、片思いの相手が自分に好意を示した途端、生理的な嫌悪感を抱いてしまう感情の変化を表していた。

そして2023(令和5)年、TikTokを中心に「蛇化現象」が登場する。他の人では否定的に感じる行為も、好きな人がすると、気にならないどころか、それすらも愛おしく思える全肯定の世界観が現れた。

郷土玩具界では、すでにかわいらしい表情のへびが多く登場し、現代の人間界にすっかりなじんでいる。

### 【展示資料ピックアップ】( )内の数字は展示資料一覧の番号

#### ◆「リンゴと巳」下川原焼土人形(青森県)(2)(図1)

津軽藩時代、冬の農閑期に玩具制作が奨励され、以来約200年、現在は弘前市の2軒で作られている。白を基調とした色鮮やかな鳩笛が知られているが、その他の十二支など、ピンポン球ほどのごく小さな作品でも吹き口を造り、土笛となっている。

今回は、リンゴに巻き付いた白蛇という新しいデザインの作品を展示した。リンゴの産地青森県らしくもあり、また旧約聖書にあるアダムとイブの楽園追放も想起させる組み合わせである。ただし、この白蛇は実に無垢な表情をしている。



図1 リンゴと巳

#### ◆「巢ごもり 巳」笹野一刀彫(山形県)(8)(図2)

コシアブラという白木をクサキリという特殊な刃物で薄く削りあげ、装飾性を高めた巢に見立てている。笹野一刀彫は名君といわれた藩主、上杉鷹山ようざんが制作を奨励したとされ、その名にちなんだ鷹ようざん(「お鷹ぽっぽ」)のほか、尾長鶏、十二支などが作られている。



図2 巢ごもり 巳

#### ◆「巳」きびがら細工(栃木県)(25)(図3)

かつては栃木を代表する名品として知られた鹿沼箒かぬまほうきは、安価な大量生産品や電気掃除機の普及とともに作り手が減少した。その端材を生かし、編み込みの技法を人形づくりに転用したのが、このきびがら細工である。十二支はこれまでに各分野で受賞しており、きびがらの色味を生かして彩色を控えた作品は、北欧家具などモダンデザインとも相性が良いと、幅広い世代に受け入れられている。



図3 巳

#### ◆「大山の竹蛇」(神奈川県)(41)(図4)

大山阿夫利神社おおやまふりの土産玩具のひとつ。江戸時代から作られていたこのへびは、尾の部分を持つと、身体が左右にぐねぐねと蛇行するおもしろい



図4 大山の竹蛇

しかけがある。このしかけは各地の土産物店や駄菓子屋などのプラスチック製品でも受け継がれている。また、本資料は、尾の部分が縦笛のように吹き口と指穴が開いている。本資料は鮮やかな黄色だが、一般的に知られる緑色のへびは、1977(昭和52)年の年賀切手のモデルに選ばれている。

◆首振り(倉吉張子)(鳥取県)(64)(図5)

江戸時代から平成まで、はこた人形を長く伝えていた備後屋の三好明が一時期制作していたという首振りの巳が、わずか1点だけ残されていたおり、それを参考にして、十数年ぶりにはこた人形工房が復刻した。全体的に先代よりもやや小ぶりに作られている。

臼のように円柱型のどぐろが珍しく、円柱の天頂には金の丸印、胴には松竹梅が描かれる。真っ赤な二股の舌も白蛇のアクセントとなっている。

◆ハブグラー(沖縄県)(84)(図6)

アダンの葉などを材料とし、引っ張るとすばまるように編まれた筒状のおもちゃは、穴に指を入れて反対側から引っ張ると、なかなか指が抜けない。へび(ハブ)が獲物に食らいつく様子をうまくおもちゃに仕立てている。編む葉の幅によって太くも細くもできるが、一般的には6~7mm幅が扱いやすい。「グラー」は東北の「ベコッコ」のように、小さなものに付ける沖縄の言葉(指小辞)である。



図5 首振り(右が先代作品)

【関連イベント】

タイトル:指ハブづくりに挑戦!

日時:令和7年1月5日(日)11:00~12:00

会場:エントランスホール

参加者数:18人

内容:沖縄のハブグラー(指ハブ)を紙ひもで制作した。本来はアダンの葉を用いるが、6mm幅の紙ひもはアダンに比べ入手しやすく、比較的扱いやすい。また、摩擦力が高いので、指を入れた後のしまりがビニールよりも良かった。今回のキットは、編みながら混乱しないよう紙ひもを2色づかいに組合せてみた。編みはじめはやり直すこともあったが、3段目くらいからは徐々に慣れてきて、ほとんどの参加者が1時間以内に約20cm弱の長さまで編み込んだ。

この編み方、素材にたどり着くには、いくつかの書籍、Webサイトを確認した。丸棒などの道具を使ったり、チラシを折って用いたり、それぞれ試してみたところ、『小学生のかんたん! おうち実験室』(山村紳一郎監修 成美堂出版)の説明、作り方がわかりやすく、こちらを参考にして当館のイベント向きにアレンジした。

参加者には、持ち帰り用のキットも1組ずつ渡し、自宅でも再挑戦できるようにした。大きい腕サイズのハブグラーも実物を提示し、チラシや梱包テープなどの素材違いで作ることも勧めてみた。

図6 ハブグラー



【参考文献・Webサイト】

『郷土玩具辞典』(新装普及版) 斎藤良輔編 東京堂出版 1997年

「蛇化現象とは 蛙化現象やキング化現象との違いと併せて解説」神崎メリ マイナビウーマン

<https://woman.mynavi.jp/article/230804-10/#anchor-5> 2025年3月15日閲覧

「よみがえる くびふり張子」但見易史 『読売新聞』 2024年11月21日

<https://www.yomiuri.co.jp/local/tottori/news/20241120-OYTNT50122/> 2025年3月15日閲覧

(文責 長嶺泉子)